

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意下さい。

農作物技術情報 第5号 野菜

発行日 平成21年 7月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/>」

ハウス果菜類
露地きゅうり
ほうれんそう
露地葉茎菜類

草勢維持と病害虫防除の徹底
整枝・摘葉と重要病害に対する初期防除の徹底
気象変動に対応した管理と適切なかん水管理
適期作業と病害虫防除の徹底

1 生育概況

- (1) 半促成きゅうりはほぼ収穫が終了し、今後抑制きゅうりが作付されます。露地きゅうりは収穫量が増えています。曇雨天経過により草勢の低下している圃場がみられています。病害虫はべと病、うどんこ病、炭そ病等が県中南部を中心にみられるほか、県北沿岸部では黒星病も散見されます。
- (2) 雨よけトマトは、現在3～4段花房中心の収穫となっておりますが、日照不足により着色が進まない状況が続いています。病害虫は葉かび病、灰色かび病が発生しているほか、アザミウマ類による果実への加害がみられます。
- (3) ハウスピーマンは、収穫量の増加や日照不足により生理的な落花もみられますが、概ね順調な生育です。露地ピーマンは7月中旬の強風による枝折れや曇雨天経過により草勢の低下している圃場が見られています。病害虫は灰色かび病、モザイク病、アザミウマ類、タバコガが発生しています。
- (4) 雨よけほうれんそうは、7月中旬の強風により各地で屋根ビニールの破損があった他、一部で風の吹き込みにより葉の傷みが見られました。一部でタネバエの発生が多かった他、気温の上昇に伴い、萎凋病の発生も見られています。
- (5) キャベツは害虫の被害が落ち着きほぼ順調に出荷が行われていますが、株腐病等が散見されます。レタスは7月中旬の強風により葉の傷みや定植直後の苗の枯死が見られました。全般的に生育が緩慢です。軟腐病、腐敗病の発生が散見されます。ねぎではアザミウマ類の被害が見られています。強風により葉が折れているほ場も散見されます。また、一部でべと病の発生が多くなっています。

2 技術対策

(1) ハウス果菜類の管理

トマト、ピーマンなどのハウス果菜類では、梅雨明けの遅れから日照不足や湿度の高い状態が続いていますので、灰色かび病や葉かび等の発生・まん延が懸念されます。最盛期を迎え生育が旺盛となり通風しが不良になってきますので整枝、摘葉を遅れないように実施するとともに、病害虫防除ではくん煙剤の利用など効率的な防除を行います。

また、梅雨明け後の高温対策として遮光資材の利用や換気を積極的に行い、生育適温を超えない範囲でハウス内気温を維持できるようにします。

なお、収穫量、気象条件などを考慮した追肥方法を選択し草勢の維持、回復を図り収穫最盛期を乗り切ります（図1、図2参照）。

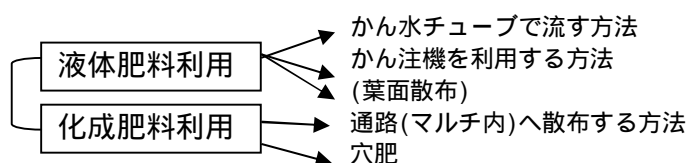


図1 追肥方法の種類

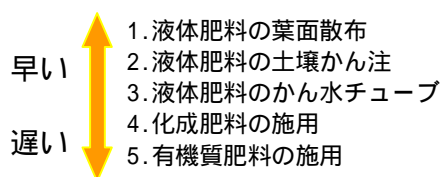


図2 肥料の種類による肥効の早晩

ア 雨よけトマト

桃太郎8は、5～6段果房の着果期以降に草勢が低下しやすく、草勢が低下すると回復が難しくなるので、こまめな追肥とかん水で草勢の維持を図りましょう。この時期は、すじ腐れ果、空洞果などの発生が多くなりますが、窒素過多や高温、多湿にならないよう肥培管理が重要となります。また、収穫後の花房下の葉は摘葉し通風を良好にします。

なお、前号同様、葉かび病抵抗性遺伝子 Cf-9 を有する品種(桃太郎なつみ、桃太郎ギフト、桃太郎サニーなど)において、葉かび病に類似した症状が確認された場合は、最寄りの指導機関に診断を依頼することをお勧めします。

イ ハウスピーマン

収穫の終わった枝や主枝の内側が混み合い光不足になる場合は、不要な枝を摘み内側に光が十分当たるようにします（図3）。

また、果肉の薄い品種では特に急激な高温になると尻腐果が発生しやすくなるので、通路にワラを敷いたりかん水を積極的に行い土壌中の水分不足を防ぎます。

なお、予防的対応としてカルシウム剤の葉面散布も効果的です。

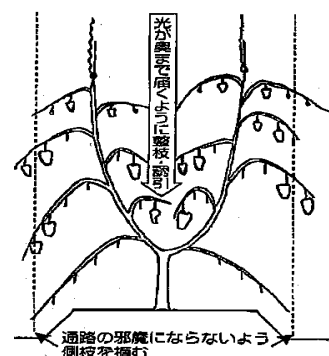


図3 最盛期における理想的な草姿

(2) 露地きゅうり

梅雨明けの遅れから日照不足や過湿ぎみの圃場が多く、べと病などの病害の発生や草勢が低下している圃場もあります。草勢維持と病害の蔓延防止のために、摘葉を基本に整枝は控え目とし、曲がり果や尻太り果などを摘果しつつ、図1を参考にしながら追肥を実施して草勢の維持・回復を図ります。

梅雨明け後、高温乾燥が続くと草勢低下につながりますので、かん水装置を備えている圃場では少量多かん水を基本に土壌水分の変化を少なくするようかん水管理に心がけます。かん水装置がない圃場では敷きわら等で土壌水分の保持を図ります。

摘葉は、主枝葉を中心に病葉、老化葉のほか新しい側枝を覆っている葉を中心に行い側枝の発生を促します。整枝は、それぞれの仕立て法に応じて行いますが、草勢低下時は半放任または放任管理とします。

薬剤防除は、うどんこ病や褐斑病、炭そ病、が重点防除時期となるので、これらの病害に効果のある薬剤を選択して予防散布に努めます。なお、褐斑病や炭そ病の発病が見られる場合は、病葉を摘葉したうえで、効果の高い薬剤を選択して散布します。

また、収穫最盛期を迎え曇雨天後に急激な晴天になると「しおれ」症状が発生することが予想されます。病害（ホモブシス根腐病(写真1、写真2)、つる枯れ病等)による場合と生理的な原因による場合がありますので、「しおれ」症状が発生した場合は最寄りの指導機関に連絡し根の状態等を確認の上、次年度以降の対策を検討してください。



写真1 ホモブシス根腐病によるしおれ

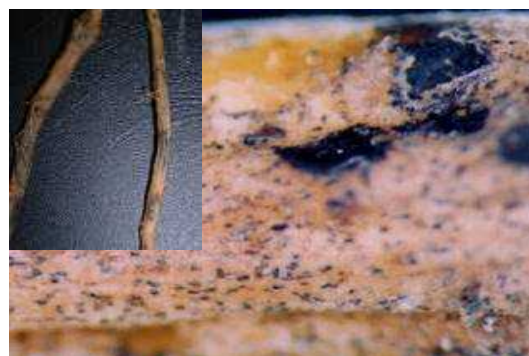


写真2 ホモブシス根腐病による根の状態
(左上：黒変症状 右：200倍に拡大)

(3) 葉茎菜類の管理

ア 雨よけほうれんそう

曇雨天後の強い日差しにより葉が萎れたり、葉焼けを生じる場合があります。遮光資材等を利用して、急激な温度、日照の変化を避けるようにしましょう。

曇雨天が続くと徒長気味の生育となり、株重が低下します。また、べと病の発生も懸念されます。排水や換気に十分注意するとともに、株間を十分広くとりましょう。

一方、高温、強日照が続くと、土壌が乾燥してほうれんそうの生育が停滞します。播種前後のかん水はムラなく丁寧に行うと共に、圃場の乾燥状態に応じて生育中のかん水も行いましょう。

本葉4～6枚程度が生育中のかん水を行う適期ですので、できるだけ涼しい時間帯を選んでかん水します。

ただし、本葉出始め頃のかん水は立枯症状を招き、収穫10日前以降のかん水は軟弱徒長、過湿による病害発生や品質の低下を招くことがありますので注意しましょう。

例年夏場に萎凋病の発生が多く、収量が大幅に低下する場合には、土壌消毒により土壌中の病原菌密度を低減し、生産の安定化を図りましょう。消毒の方法としては、クローピクリン等の土壌消毒剤による方法と、太陽熱消毒等の農薬によらない方法があります。また、土壌病害は土壌消毒に頼るだけでなく、適正な施肥や良質の有機物の施用、残さの処理等総合的な対策を実施しましょう。



写真3 本葉4枚の状態
かん水を行うならこの時期から

イ キャベツ・レタス

キャベツの害虫は今後も継続して発生しますので、定植時から防除を行いましょう。また、8月中旬以降、再びヨトウガが発生する時期となります。

気温の上昇に伴い軟腐病などの腐敗性病害の発生に注意が必要となります。葉の裏や株元まで十分薬液が届くように防除しましょう。

これから収穫する作型では、天候の変動により、裂球や生理障害の発生が多くなりますので、適期収穫に努め、収穫率の低下を防ぎましょう。

収穫終了後の圃場はできるだけ速やかに整理し、病害虫の発生源とならないように注意しましょう。

ウ ねぎ

生育は概ね順調ですが、べと病の発生が多い圃場が見られています。定期的に防除を実施しましょう。

土寄せは生育状況や天候を見ながら行い、無理な土寄せは行わないようにしましょう。

なお、作型や品種によっては、最終土寄せを行う時期となります。8月収穫の場合、最終土寄せは収穫予定の15日前を目安とします。最終土寄せから日数が経ちすぎると、軟白部と葉の色の境が不明確で、葉鞘部のしまりも悪くなり品質が低下しますので、計画的な作業、適期収穫を心がけましょう。また、収穫が早い作型では収穫前日数に注意して農薬を使用します。



写真4 ベと病に感染したねぎ

エ アスパラガス

斑点病等の病害発生が懸念されますので、定期的に薬剤防除するとともに、立茎栽培では、茎葉が繁茂しすぎないように、萌芽してくる若茎は弱小茎や曲がった茎も含めて刈り取ります。

伏せ込み促成アスパラガスの伏せ込み用根株への追肥は8月上旬までには終了させましょう。生育後半まで肥料が効いている状態では、円滑な養分転流が妨げられる恐れがあります。また、普通栽培・立茎栽培と同様に、斑点病の発生には十分注意して、必要に応じて防除しましょう。

次号は8月27日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

**6月1日～8月31日は
農薬危被害防止運動期間です**

近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
農薬の保管・管理は適切にしましょう